

【目次】

地 域	No.	要 望 ・ 意 見	対応状況	担当課
赤岡町	1	無縁塔墓地の擁壁について	完	環境対策課
赤岡町	2	防犯灯について	完	赤岡支所
赤岡町	3	支所職員の配置について	完	総務課
赤岡町	4	地域と連携した教育について	完	学校教育課
赤岡町	5	中長期的な視野に立った森林整備について	完	農林水産課
赤岡町	6	防災倉庫の整備について	完	防災対策課
赤岡町	7	市営バスの停留所について	完	地域支援課
赤岡町	8	市営バス乗車の際の荷物制限について	完	地域支援課
赤岡町	9	若者への地域教育について	完	学校教育課
赤岡町	10	ふるさと納税について	完	総務課
赤岡町	11	災害時における水の確保、城山高校避難場所の発電機の使用について	完	上下水道課 防災対策課
赤岡町	12	農業生産基盤の整備及び農地の保全整備の支援について	完	農林水産課

NO.	赤岡町 1	対応状況	完
	無縁塔墓地の擁壁について		
受 付	令和4年4月25日 月曜日 赤岡町市民懇談会で意見聴取		
要望・意見	昨年も同じ質問をしたが、江見地区の無縁塔墓地について、擁壁の高さが2.5mで縦横に大きな亀裂があり、今にも崩れそう。擁壁が崩壊すれば、墓石と一緒に道に崩れてくる。無縁塔墓地は赤岡町史にもあるが、赤岡は、発展のために墓地が造られた土地であり、昭和47年ごろに赤岡小体育館建築にあたり、墓石を現在のところに移転したと聞いている。それが一例で、その他にも移転してきた墓石があると聞いている。旧赤岡町がどのように関わった証拠を示す書類もないが、逆に行政が関わらなかった証拠もない。津波の来る以前に、震度5、6程度の地震で擁壁は崩壊する。津波が来る以前に、事故等で日々の生活に危険が無いような環境にしていきたい。市長にも擁壁の状態を見てもらいたい。前の市長は、頭を悩ましている、心配していると答えてもらっており、市長が代わられても市民の安全を守るということでぜひ対応していただきたい。土地の所有者は寄付すると言っている。		
対応状況等	【地域への回答内容】 【環境対策課】 前回の地区懇談会の中で、再度、赤岡小学校体育館建築当時の資料の確認を行うことと、災害面から東側擁壁のブロック塀撤去の補助が受けられないかの確認をするということだった。その後、担当課に確認をすると、赤岡小学校については当時の資料が無く、またブロック塀撤去についても補助の対象にならないとの回答だった。前回の回答と同様になるが、民地であること、現時点では市としての対応が難しい状況である。ただ、今後地元の方々の話合いの機会を持つなど詳しい事情もお聞きして、市として何ができるのか検討していければと考えている。 【市長】 議事録で読んでいた。環境対策課からの説明のとおりであるが、私自身も現場を見させていただいて、すぐに何ができるかお答えはできないが、現場を見に行き現状を目で見ることはきちんとしたいと思っている。		
担当課	環境対策課		

NO.	赤岡町 2	対応状況	完
	防犯灯について		
受 付	令和4年4月25日 月曜日 赤岡町市民懇談会で意見聴取		
要望・意見	弁天通りは小学校南の通りの地区であるが、そこにある街灯6本が非常に暗いので改善してもらいたい。小学校の上の体育館は避難場所、地区の住民が通る避難経路になっており、夜は小学校で週に何回かサッカーをやっているスポーツ少年団が自転車で帰る経路にもなっており、防犯的にも防災的にもすごく暗いので、一度現場を見て、改善してもらいたい。		
対応状況等	【地域への回答内容】 【地域支援課】 街灯については、地域管理のものと市管理のものとがあり、一度現地確認しに行く。 －後日回答・対応－ 【地域支援課】 4月25日 懇談会終了後、市長、地域支援課長及び地域支援課職員で質問者を含めて現地確認をした。指摘のあった6本は商工会管理のものであったため、赤岡支所から商工会に連絡のうえ、質問者に今後の対応策について連絡することを伝えた。 4月26日 地域支援課長から赤岡支所長に現地確認等について報告し、質問者への連絡等、以後の対応を引き継いだ。 【赤岡支所】 ・4月26日 香南市商工会に市民懇談会の内容を報告し対応をお願いした。 商工会によると、弁天通に設置している器具(7基)をLED化する事業を令和4年度に予定しており、商工観光課の補助決定後に工事に着手すること。 ※工事着手前には、自治会に説明及び支所にも連絡するように依頼した。 ・質問者に連絡し、上記の内容と商工会から事前連絡があれば、支所から連絡することを伝えた。 ・7月29日 7基をLED照明に交換する作業が完了。		
担当課	赤岡支所		

NO.	赤岡町 3	対応状況	完
	支所職員の配置について		
受 付	令和4年4月25日 月曜日 赤岡町市民懇談会で意見聴取		
要望・意見	何年か前にも質問をしたが、今度の異動を見て、赤岡支所と赤岡市民館の職員は赤岡の出身者だけ。前にもお願いしたが、なぜ赤岡の職員だけになっているのか。私の思い込みかもしれないが、見方によっては、差別行政ではないか。同じ香南市の職員であれば、赤岡は赤岡で責任を持ちなさいではなく、赤岡の地域を知っている職員が一人いて、それにプラスアルファで香南市の職員がついて、香南市の市町村である赤岡を職員が知る必要がある。どういう思いがあってこういう異動をしたのかお聞きしたい。		
対応状況等	【地域への回答内容】 【市長】 就任する前の今年1月20日の議会で、支所長はこれまで課長補佐級だったのが課長に代わり、これから支所を充実させ、支所機能を上げていくことが決まって、今年度が初めての年になる。 平成31年の議事録を読み、ご質問は存じているが、その時の回答は、まずは課長補佐級で、支所業務で鍛えられて、その後管理職になる形をとっていく、というものだった。今年度は、4つの支所で支所長が課長になって最初の年度で、結果的にそれぞれ出身の方が支所長をすることになったが、新しい支所の体制を作ったので、来年度以降、支所がもう少し機能的に動ける、地域のニーズをしっかりと捉えてそれに答えられるようにしていきたい。そのような質問を初めて受けたので、問題意識を持って、人員の配置をやっていきたい。今年度は、組織が変わったので一定ご理解をいただきたい。 －後日回答－ 【総務課】 同上		
担当課	総務課		

NO.	赤岡町 4	対応状況	完
	地域と連携した教育について		
受 付	令和4年4月25日 月曜日 赤岡町市民懇談会で意見聴取		
要望・意見	教育委員会の資料に、学校教育課の取り組みとして「関係機関も含め保護者と連携しながら」とあるが、関係機関とはどのようなところか。赤岡だったら児童館や子ども会が含まれているのか。赤岡というところを教師やカウンセラーが足を運んで地域を知らないと支援がいかない。地域を知って、初めて子ども一人一人の手立てが出来てくる。それなくして、学校でのカウンセリングであったり、見えるものが見えないと思うがどう考えているか。		
対応状況等	【地域への回答内容】 【教育長】 ご意見をいただいてその通りだと考えている。先ほどは教育支援センターのことを説明したが、学校のことは、地域の方が一番よく知っているので、教職員をはじめ学校に関わる者が地域を知ることが大事なことと思う。以前は教員がフィールドワークで地域を回っていたが、最近は時間が取りづらく、日々の教育内容が多岐化し増えている。ただ、子どもは地域で育っているの、地域のことをよく理解する、地域の方々とつながることは大事と思っている。 赤岡であれば、子どものことは学校に相談に行くが、保護者の方々は自分が育った市民館に相談や子ども子ども会を通して学校より先に相談に行くことも十分考えられるので、そこと学校がしっかりと連携することは大事と考えている。以前のように学校の中で授業を持たないで地域を回る教員は配置されていないが、学級担任や管理職が地域を回って、日々連続して地域とつながっていくことが大事ということは、校長会、教頭会の中でも伝えている。昔のように十分な時間を取れていないところもあるが、次の会でもそうしたことを伝えていきたい。 －後日回答－ 【学校教育課】 同上		
担当課	学校教育課		

NO.	赤岡町 5	対応状況	完
	中長期的な視野に立った森林整備について		
受 付	令和4年4月25日 月曜日 赤岡町市民懇談会で意見聴取		
要望・意見	中長期的な視野に立った提言、取り組みについて市長の考えをお聞きたい。今年の物部川の異常な水位、香宗川も夜須川も川の水がほとんど流れてなく、農業に支障をきたしており、毎日の水の管理をするよう放送が流れている。原因は気象状況などいろいろと考えられるが、まず第一に森林の保水力の低下が大きな原因の一つ。平成の時代に林業が衰退し、成り立っていかない。林業の活性化に取り組んでいかなければいけない問題ではないか。香南市にも山林があり、山林の保水力を高めるために山の手入れをすることが将来の課題ではないか。4月19日の新聞で、本山町がバイオマス燃料で発電をして農業に取り組んでいく記事を見た。香南市だけでは無理だと思うが、南国市・香美市・香南市の3市が一体となってこういう発電所を作って、農業も潤っていける次世代の取り組みをすべきでないか。市長の今後の取り組み、20年、30年先の問題を描いて欲しいと思い質問をさせてもらった。		
対応状況等	【地域への回答内容】 【市長】 先週、物部川について南国市長、香美市長と共に、県知事と四国地方整備局長に永瀬ダムの底水を使わして欲しいと要望を出してきた。厳密には、土地改良区、物部川漁協さんが出す要請書に対して、お力添えをという要望だった。様々な要因がある中で、森に人が住まなくなると林業が衰退し、森林の整備が出来ず、治水が出来なくなったのが大きな原因。それで山崩れが起こり、永瀬ダムに土砂が溜まって、濁流が起こっている現状に対し、物部川関係者で対策を取っている。木材の自由化で木の値段が下がったため、林業が衰退し、山の手入れが疎かになり、鹿等の鳥獣被害も起こり、全てが悪循環でこのようになっている。山を如何にしっかりと守っていくか。香南市は、森林の整備を香美森林組合に委託しているが、なかなか追いつかない。自伐林業で個人で木を切って、搬出し山を整備する。佐川町では、地域おこし協力隊を利用して自伐林業をしている方が増えている。自伐林業は、半分農業で空いている時期に山で木を切ったり、観光と林業等様々な組み合わせができると聞いているし可能性があると思う。 大規模な森林組合への委託と小規模な自伐林家型林業を組み合わせ、山の整備を進めていかなければ、さらに鳥獣が増えて農業に大きな影響がある。実際、物部川の水が止まれば、永瀬ダムの被害を被るのが香南市、南国市の農家の方になる。香宗川、下井川、夜須川でそのようなことが起こらないとは限らないので、中長期的な視野にたって、様々な助言を聞き、山の整備を考えていきたい。そして、林業の担い手、狩猟ができる方など山に関して様々なことができる方を育てていく術を検討していきたい。 －後日回答－ 【農林水産課】 同上		
担当課	農林水産課		

NO.	赤岡町 6	対応状況	完
	防災倉庫の整備について		
受 付	令和4年4月25日 月曜日 赤岡町市民懇談会で意見聴取		
要望・意見	南海地震が近づいている。避難所が、赤岡小学校体育館の東側にあり、そこに倉庫を建設して欲しいとの提案を以前からしているが、明確な答えがもらえていないので、再度、聞きたい。江見町・本町・横町・弁天の4つの地区が避難するので、毛布、食料品を置くことができる倉庫を建ててほしい。		
対応状況等	【地域への回答内容】 【防災対策課】 今の時点では倉庫を建てる予定はない。以前の地区懇談会でも江見町の方から話があり、自主防災組織の倉庫を建てる提案もしたが、自主防災組織の活動が休止状態であるので話が止まっている。 備蓄品は、野市の給食センター横の倉庫に一括で置いていたが、津波が来たら野市から赤岡に運べない、という問題があって、先月ぐらいから赤岡小学校の校長先生と話しをして、体育館の2階に収容人数分の備蓄品を野市から置くことを計画している。置くのは一般の避難者分のみで、生徒の分は別と考えている。今年、早いうちに体育館に置くよう計画しているので、ご理解いただきたい。		
担当課	防災対策課		

NO.	赤岡町	7	対応状況	完
	市営バスの停留所について			
受 付	令和4年4月25日 月曜日		赤岡町市民懇談会で意見聴取	
要望・意見	市営バスについて、1年ほど前に骨折をして、車に乗れない。リハビリのため、保健センター前から野市中央病院まで市営バスを利用していた。値段も安いし、大変便利で助かったが、装具をつけて保健センターまで歩く必要があり、昭和橋を通る吉川ルートもあり、香南市も広いので贅沢は言えないが、足延べを縮めていただいて、もう少し停まる停留所を増やしてもらえないか。			
対応状況等	【地域への回答内容】 【地域支援課】 市営バスについては、3年に一度、見直しを図っており、その際は利用者の方のご意見を聞きながら、時刻やバス停の変更などを進めている。利用者数なども精査しながら利便性を図っていく。			
担当課	地域支援課			

NO.	赤岡町 8	対応状況	完
	市営バス乗車の際の荷物制限について		
受 付	令和4年4月25日 月曜日 赤岡町市民懇談会で意見聴取		
要望・意見	市営バスを利用している。3歳の孫がおり、泊りにくるので、子どもがベビーカーを乗せた時に、「大きいから今度から乗るな」と言われて、仕方ないから土電かJRを利用している。 また、知人の話だが、お年の召されたおばちゃんがい物で思わず買い込んで3つの袋を持って乗ったら、「膝の上に乗せれる買い物をしてくれ。それほどたくさん持って乗られたら困る」と言われたそうだが、制限があるのか。		
対応状況等	【地域への回答内容】 【地域支援課】 市営バスに制限はありません。市営バスは、便によって乗車人数が少ない便もあるが、ベビーカーや高齢者の手押し車を含めて、バスの利用環境が良いように整えていきたいと考えている。また乗務員の利用者の方に対する態度等については、市営バスの運行業務を委託している会社へ本日のご意見を伝えて指導する。 【市長】 そのようなことをさせないように、委託会社へ話をします。高齢者と子どもに対してあてはまらないことだと考えている。 －後日回答－ 【地域支援課】 4月26日 担当者から運行事業者へ以下のとおり指導を実施した。 1. ベビーカーの積載について→ベビーカーの積載は禁止していないので、利用者へは2人掛け席の1席や後ろの方の席の通路に置く等、なるべく他の利用者の迷惑にならないような配慮をお願いしますというように伝えるよう指導。 2. 買い物袋について→買い物袋については、座席に余裕があれば、荷物を空いている座席に置いて問題ないので、利用者へは満席の場合は膝の上や足元に置く等のご配慮をお願いしますというように伝えていただくよう指導。 【市長】 4月26日 委託事業者へ指摘内容について指導をした。		
担当課	地域支援課		

NO.	赤岡町 9	対応状況	完
	若者への地域教育について		
受 付	令和4年4月25日 月曜日 赤岡町市民懇談会で意見聴取		
要望・意見	市長の重点施策を伺って、大いに期待をしている。「こどもまんなか社会の実現」だが、小学校に入学する生徒の人数が4名と聞いているし、実際に子どもが少なくなっている。赤岡にいて、町が崩壊していっていると実感している。県を中心市街地活性化プランは、一番の中心街だけ生き残る施策、野市町を活性化していくと感じているが、香南市は5か町村あり、それぞれ個性が違って、赤岡の個性にあった活性化が必要と思う。子育て施策の前に、若者が地域から流出せずに子どもを産みたくなる、又は地域に若者が入ってくるような活性が必要になってくると思う。幸い近くに教育機関があり、若者がいるので、その若者へ地域教育をしていくことは、この地域に興味を持ってもらって町の元気に繋がっていくと思うし、ITは必要だが、地域のことをみんなで考えていくことが必要になってきている。		
対応状況等	【地域への回答内容】 【市長】 野市町に一極集中というのは、ご指摘のとおりで、地域のインフラの関係等もあるが、それぞれの地区が同じ大きな課題、地域をいかに持続させていくかが大切なことだと思っている。その中で、そこで育った方がそれぞれの地域で暮らしたいと思えるか、どのようなことができるのか、まだ個別に具体的にあげられないが、大事なことで取り組んでいきたい。 【教育長】 学校教育も地域の方々に協力してもらい、地域学習に大事に取り組んでいる。毎年のアンケート調査によると、香南市内の子どもは、他の地域と比べて、自分の住んでいるところが好きという割合が大変高く、9割以上は好きと答えている。これは、今までの地域の方々の協力や学校の取り組みの成果だと思うが、一方、自分の住んでいる地域は好きだが、将来ずっと地域に残ってくれるかという点で出ていく子どもも多い。中学生に聞くと、将来生計を立てる、マッチする仕事がないと答える子もいる。ただ、今までは都会に行き成り立つ仕事が多かったが、これからは、地域にいても成り立つような形態が考えられるので、今ある形態にのみ子どもが合わせていくのではなく、自分から考えて地域にある産業と新しい色んなものを取り入れながら発展させていける、そんな力に繋げる教育を進めていかなければと考えている。子どもたちが地域の中に活性化を見出せるように力を入れていきたい。 －後日回答－ 【学校教育課】 同上		
担当課	学校教育課		

NO.	赤岡町 10	対応状況	完
	ふるさと納税について		
受 付	令和4年4月25日 月曜日 赤岡町市民懇談会で意見聴取		
要望・意見	市長の重点施策の「持続可能な共生社会の実現 ふるさと納税の更なる活用」について、返礼品の活用工夫は色々あるが、活用の部分と返礼品の連動されたものが残念ながらできていないと思う。地域を活性化させるものとふるさと納税が連動してくると、さらにもっといいアイデアが出てくると思う。		
対応状況等	【地域への回答内容】 【市長】 ふるさと納税について、今年度になって、観光協会、市総務課担当者と私を含めて3者で、ふるさと納税のあり方をこれまでとは違った形で考えるために協議を始めた。それぞれの思いをふるさと納税にしっかり活かしていけるような、ただお金を集めるというふるさと納税ではなく、地域にどのように活かしていけるのか、ふるさと納税のあり方を考え、充実させていきたい。 －後日回答－ 【総務課】 同上		
担当課	総務課		

NO.	赤岡町 11	対応状況	完
	災害時における水の確保、城山高校避難場所の発電機の使用について		
受 付	令和4年4月25日 月曜日 赤岡町市民懇談会で意見聴取		
要望・意見	南海トラフ地震が起こった時に一番困る水について。赤岡の場合は単独に古川に水源地があるが、水源地の水が使えない状況に陥ると、最も必要とする水が回ってこないの で、方法を考えてもらいたい。野市は、津波の影響を受けにくいので、野市の水源ポンプ を流用させてもらって、配管を100メートルぐらい赤岡の方へ接続したら、赤岡がダメでも 野市から水が回ってきて、確保できるのではないかな。 城山高校避難場所について、野市から水が回ってくると水の心配はなくなるが、学校体 育館の北側にある市の防災施設に、50人くらいのお湯を沸かすガスによる発電機が置 いてある。その施設は、災害時に市の職員が取り扱うのか、それとも避難した地域住民 が使うべきなのか。市の職員が来るよりも地域の者が使い方を知っていれば、十分に活 用ができるのではないかな。訓練の時に利用できたら、いざという時に対応できるのでご 協議いただきたい。		
対応状況等	【地域への回答内容】 【防災対策課】 野市の水道水を赤岡の方に回せるかは、分かりかねるので確認を取っておく。 城山高校への水について、赤岡小学校への体育館へ分散備蓄をこれからしていくので、 城山高校は県立なので若干ハードルが高い分があるが、近いうちに城山高校へ水・食 料・物資を置いていただけるか、置く場所があるのかの協議に行く。一回は行っていた が、高校で異動があると全く引継ぎがされていなく、リセットされたので、また再度学校へ 出向いて、備蓄運用を置いていただけるように協議したいと思っている。 また発電機の使い方については、当然地元の方で使っていただくことが一番いいと思っ ており、講習会なども行っていきたいと思っているので、ご参加のほどよろしくお願いします。 す。 －後日回答－ 【上下水道課】 野市地区と赤岡地区の配水管接続については、給水エリアの違いによる常水圧の違い により濁り・漏水が生じる可能性など課題が多く、また、緊急時用の配水管の場合、その 配水管内の水は動かないため時間の経過と共に塩素も無くなった死に水となるため管 内の水を処理する方法も必要等様々な問題があると思われる。そのような事もあり接続 に慎重を期す必要がある。 ただ、防災において水は最も必要なものと考えているので、赤岡町だけでなく、香南市全 体を見据えて配水管計画を行っていく。		
担当課	防災対策課・上下水道課		

NO.	赤岡町 12	対応状況	完
	農業生産基盤の整備及び農地の保全整備の支援について		
受 付	令和4年4月25日 月曜日 赤岡町市民懇談会で意見聴取		
要望・意見	農業関係について、市長の考え方を聞かせていただきたい。赤岡町の現状として、放棄地が3反ぐらい、休んでいるところが2反ぐらいで、後は北rais、そして作ってくれる人2名を中心として放棄地とせず頑張っている。市は、農林公社へ補助金を出して耕作をしていると聞くと、実情として、人がいない、補助金が少ないのでこれ以上は出来ないなどと聞くと、将来を考えると農林公社へ補助金を多く出して、そこでコロナで仕事が無い者を雇用して農地を活用したらどうか。また、新規就農者やUターンなどが利用するのは、一部であり、耕作放棄地の解消にならない。 市長の重点施策に、「農業生産基盤の整備及び農地の保全整備の支援」とあり、言葉はその通りだが、市長として具体的にこういうことがしたいと考えていることがあれば、お聞きしたい。		
対応状況等	【地域への回答内容】 【市長】 耕作放棄地は、大きな課題であり、年々増えてきている。先日、農業委員会からも意見書をしていただき、対策をしなければ、一次産業を守らなければならないと思う。話は大きくなるが、今、ウクライナの戦争問題で燃料や小麦を使った食品の値段の高騰がさらに深刻になると考えられるが、例えば替わりとして、米粉を使うことで食料の確保を国をあげて真剣にやらなければいけない中で、香南市を含めた地方はその受皿として、生き残るためにやらなければいけないと感じている。その中において、米の値段が安定せず、より下がっている影響もあり、赤岡町もそうだが、野市町は宅地化が進み、豪雨災害等に関しても、下井川・烏川・瀬戸川の氾濫、そしてそれが及ぼす香宗川等の下流域の水の増加、元をたどれば宅地化によって、これまで地下に水が浸透していたのが、アスファルトが出来てそのままスルーして、本来であれば下井川水は用水を使う川であったが、今は排水が多く流れ、様々な問題があることは承知している。田を守ることで、水を張ることで地下水が守られる、下井川の水があふれるのを抑えることができると思われる。それは香宗川も同じ。 単に食料の問題でなく、住民の命にも災害が起こると様々な影響が出ることもある。吉川町の市民懇談会において、農業をしている方が昨年、下井川の水が超えて水路が壊れ、二らが作れなかったと聞いた。先ほど挙げている農業基盤の保全整備、地域を限定せず、市全体を見回して特に災害が起こりうる地域に対しては、しっかりと水路等の整備を進めなければいけないし、一度宅地化が進むと、農業の隣で、例えば虫が出て消毒をするにしても、住宅と近隣に住む方がそれを嫌がる傾向があつて、かえって農業をやりにくくなる、それが耕作放棄地に進んでいく悪循環を実際に目にして、どのラインでバランスを取るか私自身まだ決めておらず、私だけが判断できることではないので、農業従事者、農業委員会、実際の農家の方々を含めて話し合いをしていかなければならないが、その中でも今後耕作放棄地をできるだけ止められる、一定有効活用できることをやっていきたい。 その中で農業公社のあり方、今は予算の中で精いっぱいやっていると公社の方から聞いているが、しかしどれぐらい予算を追加して、人を雇って、どれぐらいできるのかを含めて、それと民間で田をあたってくれている方々がそれぞれの地域におられるので、全体として、農業公社のあり方を考えていかなければならないし、どのようなことができるのかを農林水産課と農業公社を含めて、話し合いの場を持つよう公社に話をしているとおりであり、それほど時間をかけずに取り組んでいくことをお約束する。 －後日回答－ 【農林水産課】 同上		
担当課	農林水産課		